

■特別活動の目標

集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。
- (2) 集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。
- (3) 自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間としての生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。

■特別活動の特質に応じた見方・考え方

各教科等の見方・考え方を総合的に働かせながら、自己及び集団や社会の問題を捉え、よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己の実現に向けた実践に結び付けること。

■高知県が目指す授業づくりのコンセプト**○特別活動における「学びを変える」とは**

生徒自らが考え、高めていくような自主的、実践的な活動を通して資質・能力を育て伸ばしていくようにすることです。そのためには、各活動・学校行事の特質に応じた適切な学習過程を経た指導が大切です。

○特別活動における「学びをつなげる」とは

学校における集団活動や体験的な活動を通して、各教科等で身に付けた力を、実際の生活において生きて働く汎用的な力にしていくようにすることです。そのためには、特別活動の内容が各教科等に広く関わるものであることや、このような特徴をもつ特別活動だからこそ育成することができる資質・能力を育む、ということ意識することが大切です。

○特別活動における「学びを高める」とは

各活動・学校行事の学習過程において、授業や指導の工夫改善を行うことで、一連の活動過程の中で質の高い学びを実現することです。そのためには、特別活動で重視される「実践」を、単に行動の場面と狭く捉えるのではなく、課題の設定から振り返りまでの一連の活動として捉えることが大切です。

■特別活動の特質に応じて、効果的な学習展開ができるように配慮すべき内容**○指導内容の特質に応じた活動の展開**

特別活動における指導内容は、「学級活動(1)、生徒会活動」と「学級活動(2)、学級活動(3)、学校行事」の2つに大別されます。前者は、特別活動のすべての内容に共通している「自主的、実践的」であることに加えて、「自発的、自治的な活動」であり、目的をもって編制された集団において、生徒が自ら課題等を見だし、その解決方法などについての合意形成を図り、協力して目標を達成していくものです。これに対して、後者は、教師の指導を中心とした生徒の自主的、実践的活動を特質とする内容です。

それぞれにおいて、特質に応じた学習過程があり、それらを踏まえた指導が求められます。

○「話し合い活動」の重視

特別活動は多様な他者との様々な集団活動を行うことを基本とし、全ての活動の中心に「話し合い活動」を置いています。学級や学校における集団や自己の生活上の課題を見だし、解決するために合意形成を図ったり、意思決定したりする中で、話し合いを通して他者の様々な意見に触れ、自分の考えを広げたり、課題について多面的・多角的に考えたりすることが重要です。

○キャリア教育の要としての役割

特別活動は、学校の教育活動全体を通して行うキャリア教育の要としての役割を担っています。特別活動の特質を踏まえ、どのようにキャリア教育を行うのか創意工夫し、各教科等における学習等との関連を図って指導することが大切です。

学級活動(1) について

生徒の自発的、自治的な活動を通して、自己と集団の関わりを理解し、健全な生活や社会づくりの実践力を高めることをねらいとしている。

ここで扱う活動内容は、学びに向かう集団づくりの基盤となるものであり、その特質から、できる限り生徒の自発的、自治的な活動が進められることが望まれる。活動を進めるにあたり、生徒の実態や学年段階を踏まえた題材から適切な議題を設定し、話し合い、合意形成とそれに基づく実践が図られることが大切である。

内容

ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決

○学級や学校における生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図り、実践すること。

イ 学級内の組織づくりや役割の自覚

○学級生活の充実や向上のため、生徒が主体的に組織をつくり、役割を自覚しながら仕事を分担して、協力し合い実践すること。

ウ 学校における多様な集団の生活の向上

○生徒会など学級の枠を超えた多様な集団における活動や学校行事を通して学校生活の向上を図るため、学級としての提案や取組を話し合っ決めて決めること。

中学校における三つの柱の資質・能力

学びに向かう力、人間性等

生活上の諸問題の解決や、協働し実践する活動を通して身に付けたことを生かし、学級や学校における人間関係をよりよく形成し、他者と協働しながら日常生活の向上を図ろうとする態度。

知識及び技能

学級や学校の生活上の諸問題を話し合って解決することや他者と協働して取り組むことの大切さを理解し、合意形成の手順や活動の方法を身に付けること。

思考力、判断力、表現力等

学級や学校の生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践することができるようにすること。

育成すべき資質・能力の重要な視点

人間関係形成

違いを認め合い、みんなと共に生きていく力を育てる。

社会参画

よりよい集団や社会をつくろうとする力を育てる。

自己実現

なりたい自分に向けてがんばる力を育てる。

中学校における指導の重点

◆主体的に取り組める切実感のある議題や活動テーマを選定すること。

◆目的意識や問題意識を明確にして話し合い活動に取り組むことができるように、事前の活動や指導を丁寧に進めるとともに、決まったことの実践化を図ること。

◆小学校で身に付けた話し合い活動に関する議題の選択、話し合いの方法、役割分担などの経験を生かすことができるようにすること。

資質・能力を身に付けるための自主的、実践的活動例

第1学年「ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決」

題材 学級生活を見直そう

事前の活動

Point 問題の発見・意識化

・活動までの見通しを確認しながら話し合い活動の計画を立てる。【放課後・学級活動委員会】

問題の発見

・学級目標の達成状況を調べるアンケートを実施する。【帰りの会・学級全体】※ICTの活用
・アンケート結果を基に学級の課題について考える。【放課後・学級活動委員会】

議題の設定

・アンケート結果から、議題を決定する。【放課後・学級活動委員会】

計画の作成・問題の意識化

・提案理由を考え、本時の流れや役割を確認する。【放課後・学級活動委員会】

・本時の予告を行い、意欲付けを図る。【帰りの会・学級全体】
(※)学級活動委員会・教師の指導の下、実践するまでの準備等(計画、役割分担)を行う組織のこと。

◆本時のねらい

学級生活をよりよくするために、多様な考えを出し合い、自分たちの問題を自分たちで解決しようとする態度を育成する。(自発的、自治的な活動の展開)

解決方法の話し合い・決定の場面における資質・能力の系統例

【低学年】

・発表の仕方や意見の聞き方など基本的な話し合いの進め方を身に付けて、合意形成を図ることができる。

【中学年】

・理由を明確にしたわかりやすい発言ができる。
・自分と異なる意見を受け入れ、合意形成を図り、協働して取り組むことができる。

【高学年】

・相手の立場や考え方を理解して聞くことができる。
・多様な意見のよさを生かして、よりよい合意形成を図ることができる。

【中学校】

・目的意識や問題意識を明確にして話し合い活動に取り組み、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践することができる。

本時の活動

Point 集団としての意見をまとめる話し合い活動

問題意識の共有

●学級活動委員会からの提案及び議題を理解する。
・提案理由を発表する。

【例】2年A組をよりよい学級にするために、3つの学級目標を立てました。4月から2か月が経ち、アンケートを行ったところ、各目標の達成度は平均50%という結果でした。そこで、学級活動委員会では、夏休みまでに取り組むことについて、全員で意見を出し合っ考えることが必要だと考え、提案することにしました。

・アンケート結果を示す。
※ICTの活用
→結果をグラフ等で可視化して分かりやすくするために活用する。
・議題の発表と確認をする。

問題意識解決に向けた話し合い活動

・学級生活を改善するために、今後の取組方法について話し合う。
・多様な考えを生かして合意形成を図る。
※ICTの活用
→多くの生徒が発言しやすくなるために活用する。
→出された意見の分類や比較などを行うために活用する。

集団決定

・決定事項を確認する。(合意形成が図られた内容を確認する。)
・本時の感想を記入し、発表する。

見方・考え方を働かせている子供の姿の例

・学級の課題を自分事として捉え、よりよい学級づくりへの参画や、学級集団としての意見をまとめることの大切さについて理解し、合意形成に向けた話し合いに臨もうとする姿。

見方・考え方を鍛える教師の手立ての例

・「生徒たちで話し合い、決めて、実践する」という経験を重視すること。
・話し合いが停滞していたり、論点がずれていたるときは、必要に応じて指導・助言する。

事後の活動

Point 協働による実践と振り返り

実践と振り返り

・話し合い活動で決めた内容を実践する。

・話し合い活動で決めた内容を実践できているか、自己評価カード等を活用して振り返る。【帰りの会・学級全体】

・1か月後に実践内容の成果を再評価するために話し合う。【学級活動・学級全体】※ICTの活用